

令和3年度

学 校 評 価

令和4年5月

共立女子学園 共立大日坂幼稚園

1、学校の現況

- ・所在地 文京区小日向2-17-7
- ・学級構成 3歳児1学級（日常は2つに分けて保育している）、4歳児1学級、5歳児1学級
- ・園児数 93人（定員数105人）

2、本園の教育目標

学校教育法第22条の「幼稚園は幼児を保育し、義務教育及びその後の教育を培うものとして、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」をふまえ、目標を「伸びる力・育つ力・求める心を大切にしみゆく健やかで楽しい保育」「集団生活の中で互いの心にふれあい、自分を確かめ協力のよろこびを培う」と定め、教育要領に沿い、遊びを通して本来幼児一人ひとりが持っている力を引き出し成長していくように、各学年、園児の発達に合わせた年間目標や月のカリキュラムを明らかにしながら教育を進めている。

3、令和3年度に重点的に取り組む目標

- ・安心安全についての教育を進め、園児の習慣を徹底する。
- ・遊びや活動を豊かな学びに繋げる。

4、評価項目

①教育課程、指導

- ・新たな生活様式を取り入れた指導の状況
- ・遊びを通しての総合的な指導の状況

②保健管理

- ・家庭や地域の保健・医療機関等との連携の状況
- ・日常の健康観察や疾病予防のための取り組み、健康診断の実施状況

③安全管理

- ・安全点検や保護者、幼児の安全対応能力の向上を図る為の状況

④組織運営

- ・職員会議の運営状況

⑤研修、資質向上の取り組み

- ・園内研修・園外研修の実施、参加状況

⑥預かり保育

- ・園の受け入れ状況

⑦学校評価

- ・保護者アンケート

5、項目における自己評価

教育課程・指導

(1) 分析

〔視点〕新たな生活様式を取り入れた指導の状況

(状況)昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努め、4月に新年度を開始した。緊急事態宣言下であった2学期開始の9月は自由登園にし、社会状況を見極め柔軟に対応してきた。

保育の中では、引き続き密を避けるために3学年の共通の遊び場所である園庭を、学年ごとに時間を割り、分散して遊ぶようにした。

製作活動では、使用していた共有の下敷き紙を廃止してプラスチックの製作版を個人持ちとして、お絵描きや工作・粘土遊びの際には自分のものを使い、終わったら水拭きをして個人のロッカーに片付けるように指導した。

生活面では、毎日健康チェック表を玄関で見せ、保育室で担任に提出することを徹底し、保育室内や廊下等、順番を待ち並ぶ箇所にはマークを付け、マスクは夏季の外遊び時以外は常に着用することを継続してきた。飛沫のリスクを考え、コップによるうがいを廃止しコップの持参を止めた。手洗いの仕方については定期的に見直し指導を繰り返してきた。

お弁当時は椅子や机の間隔を空けて黙食の徹底を図るほか、持参メニューについても短時間で食べられるもの、軽食、食べ易いもの、デザート持参をしない等、感染状況や学年に合わせて対応を検討し各家庭に協力をお願いしてきた。

誕生会では、昨年引き続き飛沫感染のリスクから全園児で集まらずに学年ごとに時差で行っている。お祝いのおやつを食べることや歌を歌うことをせずに、教員が簡単な人形劇や合奏などをして祝うスタイルを継続してきた。年長組では、誕生月の該当保護者1名を15分ほど招待した。

保護者会や保育参観など保護者が園内に入る機会を設けた際には、園児1人につき保護者1人に限定し、長時間にならないようにした。

行事については、園児の特性や社会状況に鑑み検討を繰り返し、安全を考慮し中止、変更があった。10月以降感染状況が落ち着いてきた時には、新たに取り入れた行事もある。それぞれ以下にまとめる。

(行事について)

- ・(4月)入園式→簡略化して実施
- ・(5月)春の親子遠足→中止
- ・(6月)年長組ジャガイモ掘り→親子で自由に掘りに行く形式に変えて土曜日に実施した。
- ・(7月)軽井沢夏の幼稚園→中止
「なつのようにえん」として学年ごとに時間を分け、園内にて水遊び(年少・年中・年長)やオリエンテーリング(年長のみ)を実施した。
- ・(9月)防災引き取り訓練→10月に延期し実施した。
- ・(10月)運動会→園全体としては中止
11月に学年ごとに日を設け、園庭にて「ミニミニ運動会」を実施した。
- ・(10月)秋の親子遠足→中止
- ・(10月)お楽しみ会→延期
11月に教員主体で保育時間内に実施した。
- ・(10月)年中組お散歩→新たに計画(小日向公園)
- ・(11月)年長組園外保育→実施(プラネタリウム)
- ・(11月)年中組園外保育→実施(小石川植物園)
- ・(12月)クリスマス会→学年ごとに実施
- ・(1月)年長組クッキー作り、カレー作り→中止
- ・(2月)ゆうぎ会→学年ごと分散で簡略化して実施(共立講堂)
- ・(2月)交通安全指導(年長のみで実施)
- ・(3月)年長組お別れ遠足→中止
「こぼとの日」として園内プログラムに変更したが、園内での感染状況に鑑み休園措置にしたことから中止。
- ・(3月)お別れ会→形式を変え、年中長のみで実施

- ・(3月)卒園式→簡略化して実施

(取り組みについて)

(登園・降園)

- ・30分の登園時間を設け、分散登園の励行。
- ・保護者へ送迎の際の私語について掲示や口頭で注意喚起。

(生活面)

- ・登園時の健康チェック表持参の徹底。チェック表は担当が目を通す。
- ・玄関、保育室、廊下などに整列する際の目印を分かりやすく貼付。
- ・マスクは昼食時以外常時着用。(気候により適宜対応)
- ・手洗いの際のうがいを廃止。手洗いの定期的な指導。
- ・製作板を全員購入してもらい個人で使用。
- ・お弁当は机の間隔を空けて前を向いて黙食を徹底。15分以内で食べ終わるよう指導。保護者には食べやすいメニューを協力依頼。

(遊び)

- ・園庭では学年ごとに時間を割り、分散して遊ぶ。
- ・密になる集団遊び、手を繋ぐ遊びを減らす工夫。
- ・歌を歌う回数を減らし、手話を使うなどの工夫。

社会状況は依然困難が続いているが、昨年度の経験から柔軟に考え保育を進めてきた。園児も新しい生活様式に慣れ、大きな混乱なく落ち着いて過ごせている。また、昨年度はできなかった保育参観の実施が叶ったことは、保護者が園について理解を深め、子どもの育ちを共有でき、大変有意義であった。

(2) 今後の課題

引き続き感染予防に努め、状況に応じた対応をしていくが、可能な限り保育を止めず活動や行事を行えるよう工夫していく。保護者の理解、協力を得られるよう、丁寧な説明、発信を心掛ける。個々に関わりながら新しい生活様式の定着に努める。

〔視点〕遊びを通しての総合的な指導の状況

(状況)今年度は4月から行事や登園日などできる限り元に戻せるよう努めてきたが、その時の状況に応じて中止や縮小も余儀なくされてきた。その中で、年齢に応じた子どもの成長に向かって、保育内容の見直しや実践、反省を生かしていくことを重ねてきた。月ごとの保育のねらいを定め、幼稚園新教育要領で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を参考に、1人ひとりの育ちを捉え教育実践してきた。

園全体として屋外での遊びを積極的に取り入れてきた。園庭では全学年共通して季節の草花を使った色水遊びや砂場遊びを楽しむ様子が見られる。園庭でのままごと遊び用として調理器具を置いたり、すりこ木とすり鉢を準備するなど遊びの発展を促してきたことから、今年度は遊びとして定着し、各学年が発達段階に応じて楽しむ姿が見られた。色が出ることを楽しむだけでなく、ごっこ遊びの中に取り入れてジュースやお茶、スープなどに見立て、想像力を働かせて遊ぶ様子が見られた。

環境設定として、園児が自分で道具や遊具を手に取り遊びに使えるよう、子どもの動線を考慮しながら物の配置や出しておく物を整理してきた。その結果、以前よりも主体的に遊べるようになり、子ども同士が自分達で貸し借りしたり、使い方を教え合ったりする姿も見られるようになった。特に園庭では、年少児が年中児、年長児の遊びを見て真似たり、一緒に遊ぶ中で刺激を受け遊びが発展することが多々あった。更に異学年の子ども同士の関わりを通して自然とお互いの意思を伝え合う必要性や具体的な言葉、方法なども学び取る様子が見られた。

室内遊びにおいても、常に机の配置や玩具の配置など環境設定に考慮し、密にならない環境づくりや遊びの展開を見定めてきた。

コロナ禍で様々な経験を制限され、家庭での経験や状況のとらえ方が異なる中、園児の健全な遊びを個々に合わせた形で促してきた。社会の中で多くの人と関わる経験が減ってしまったことから、遊びを通じたやり取りを重ねる重要性を意識し、配慮しながら援助してきた。限られた空間の中でも伸び伸びと遊びを深めることができるよう、学年間で園庭での活動を調整し、遊び方によっても流動的に対応できるよう教員同士の連携を図っている。

(2) 今後の課題

今後も新型コロナウイルス感染症の影響が予想されるが、子ども達の豊かな学びを止めないように、今までの保育とねらいは同じでも形を変えて伝えていくと共にどのような育ちが見られるか把握し検証していく必要がある。子どもの興味関心、発達段階に留意し、自発的に活動していく環境を引き続き設定し個々の満足を満たすよう援助する。

学年として目指す姿に鑑みながら、遊びや教材についての保育研究を継続させていく。

教員間で情報共有をし、より良い方法を模索しつつ遊びの発展に繋げていく。

②保健管理

(1) 分析

〔視点〕 家庭や地域の保健・医療機関等との連携の状況

〔状況〕 園医の協力を得て作成した「幼児健康調査票」を活用している。各家庭から提出された調査票を年度初めにまとめ、各クラスで体調に留意すべきリストを作成し、学籍簿と一緒に保管している。アレルギー・低血糖・熱性痙攣等、素早く対応できるように教員間で情報を共有している。

食物アレルギーについては、野菜を園で試食する時にはその都度保護者へ確認し、教員間の情報共有を徹底している。

園医の他にも園の近くにある整形外科や歯科医、眼科医など、子どもの様子により適切な病院へ行くことができるように、電話番号や場所などを備えた冊子を職員室に備え、臨機応変に対応している。また体調の変化や病院へ連れて行く際には、必要であれば園医に相談し、保護者とも連絡を取り合う連絡システムを活用している。

(2) 今後の課題

健康面で配慮すべき事、アレルギーに関することについては、年度初めに各担任が一人ひとりについて把握し、保護者とも連携を図り教員間でも共通理解する。

新しい教職員が入る場合には園医も含め、近隣の病院の場所についても確認すると共に他教員も再確認する。

(1) 分析

〔視点〕 日常の健康観察や疾病予防のための取り組み、健康診断の実施状況

〔状況〕 毎朝の教員打ち合わせの会で園児の疾患や感染症の情報を共有している。登園時には、園長を始め全教員がそれぞれ園児一人ひとりの様子を視診し、保護者が記入した「健康チェック表」も使用し、前日や朝の園児の体温や体調などを確認し、体調把握に細心の注意を払っている。

新型コロナウイルス感染症の対策として継続して実施したこと。

①園内での感染増加を防ぐために家族や園児で風邪の症状や発熱などがある際には3日間登園自粛をお願いし、家庭内で様子を見て頂く。

②新入園時や夏の熱中症のリスクがある場合以外はマスクを着用する。

③感染リスクの高い食事の時間が短くなるように15分で食べ終わる軽食のお弁当を保護者の方をお願いし、黙食をする。

④新たに机や椅子を購入し食事の時に距離が近くなるように間隔を空ける。

⑤玩具や保育室の消毒、室内換気を徹底する。

保育中にも体調の変化については注意を払い、万が一、発熱、嘔吐があった場合には別室で休ませ、蔓延防止に努めている。嘔吐の現場、排泄の失敗があった場合にも消毒を念入りに行うようにしている。その際に使用する消毒セットも各場所に常備している。

感染症の予防に関しては、園医との情報共有や各教員の意識向上にも努めている。家庭には、配

布物「月のお知らせ」の中や園内の掲示板で情報を掲示して手洗いうがいの徹底を呼びかけ、園児には年間を通して手洗いを徹底し、身につくように指導してきた。園児が意識を高めるように手洗い歌を導入したり、ポスターを貼り、意識を高めるよう工夫してきた。うがいに関しては、飛沫感染に鑑みて取りやめた。

春の健康診断・歯科検診は5月に園医が行い、診断結果については書面にて各家庭に配布している。

(2) 今後の課題

今後も園児一人ひとりの健康観察を丁寧に行い、保護者と連携を取りながら体調把握に努め、感染症についての情報を共有していく。

疾病予防については、今後も幼児の特性について各教員が情報収集し、消毒方法も含む予防法を学び続けていくことが必要である。

年に1度の健康診断や歯科検診では園医の指示を仰ぎ、更に園で取り組めることがあれば連携を図り取り組んでいく。

手洗いは登園時や外遊び後、食事前に習慣になるよう、丁寧な指導を続ける。また、マスクの付け方、着脱の仕方などについても丁寧な指導を続けていく。

③安全管理

(1) 分析

〔視点〕安全点検（通園路の安全点検を含む）や保護者、幼児の安全対応能力の向上を図る為の状況

（状況）毎学期初めに、環境点検をチェックシートに基づき園舎内、園庭、園周りについて全教員で点検を行っている。日常的には、施設設備や園周辺の環境、通園路を確認し、危険な所がないようにしている。異変に気付いた場合は即座に報告し合い、教職員で共有し、対処している。

今年度は太鼓橋の下の安全マットが一部分浮いてしまうことがあった為、マットの全面張り替え工事を行った。

また、砂場に繋がる非常用滑り台の塗装が一部剥がれていた為、塗り替え工事を行った。

感染症対策としては昨年度に引き続き、「健康チェックカード」にて園児や家族の健康を毎朝チェックした。担任も健康チェックカードを確認し、保育中の園児の体調変化に留意するようにした。玄関での手指消毒、園舎内でのマスク着用は引き続き行った。

今年度は全国各地で大きめの地震が多発していることを受けて、全教員で災害時行動マニュアルを見直し、避難訓練で実践してきた。また、年1回の防災会議では、共立女子学園管財課と園舎の構造を踏まえた避難経路の確認や火災報知器の確認を行った。

園児の避難訓練時には、身を守る行動を取る練習だけでなく、防災に関する絵本や紙芝居などを通して園児自身が防災に対して意識を持てるようにした。防災頭巾も自分で被れるように親しむ機会を多く持つようにした。

地域の警察署とは幼児に関係する事件や事故が起こった時には連絡を取るなど積極的に連携を図っているが、警察の方を直接お招きして卒園間近に実施してきた交通安全指導については、年長児だけであったが実施し、園付近の信号を渡る指導を取り入れた。

通園路の環境変化や工事などについてはその都度問題がある時には、保護者に対しても留意点を配布物や口頭で注意喚起に努めている。降園時間は保育者が道路に立ち、安全指導を行うようにした。

保護者には送迎時の蜜を避ける為に、送迎スペースや玄関スペースの掲示板を最低限に止め、必要な情報は各家庭へ資料配布した。

(2) 今後の課題

園内、通園路の点検に取り組み、変化や危険個所について教員が共有し、対処すべきことは報告し合い迅速に対応する。また、災害時に園外に避難する場合の避難経路に危険個所がないか普段から確認し、災害時の避難に生かしていくことが必要である。保護者と共に避難訓練をする機会を設け、災害時の意識を高める活動を感染症が収まったら取り入れていく。

日常の保育の中で様々な場面での避難訓練を行って、教員が常に冷静に対応できるようにすることが必要である。

新型コロナウイルス感染症予防の為に、保育中の衛生面における注意喚起も継続し、情報を職員間で共有し適宜対応していく。

④組織運営

(1) 分析

〔視点〕職員会議の運営状況

(状況) 年度初めに作成した教員会議計画に、日程と議題について明らかにして計画的に職員会議を行っている。主に園児の活動内容や行事について話し合いを進めるが、今年度はコロナ禍で実施することの意義やリスクを洗い出し、検討を重ねることが多かった。このことを通し、深い話し合いに繋げることができた。

司会は園長、教頭中心に行うが、内容によっては各係の担当者が担うこともある。会議の内容は輪番制で書記が職員会ノートに記録している。年度初めの計画の他にも必要に応じて臨時の会議を柔軟に開いてきた。

毎朝教職員で行う朝礼では、欠席、罹患状況、連絡事項を伝え、当日の活動についても共有している。

(2) 今後の課題

計画的且つ効率的に会議を進められるように努める。教員室で密になって話し合うことを避けるため、保育室や遊戯室を使い、Meet 会議形式を導入していく。

また、計画事項の他に何か話し合うべき事項が発生した場合は、その都度柔軟に対応していく。

【添付資料 1、令和 3 年度 職員会議計画】

⑤研修・資質向上の取り組み

(1) 分析

〔視点〕園内研修・園外研修の実施、参加状況

(状況) 園内研修として、12月に公開保育を実施した。

共立女子大学家政学部児童学科7人の先生が、午前中に全学年の保育を見学し、午後から幼稚園教員と一日の活動を振り返りながら、話し合いの時を持ち意見交換を行った。教員間で活動の意味を考えたり感想を聞いたりする中で、幼稚園教員だけでは気付けなかった角度から保育を振り返る良い機会となり、園児の姿について理解を深め、今後の展開、期待される姿についても話を深めることが出来た。

毎年9月に実施している「防災及び防犯に関する研修」では、共立女子学園管財課に訓練を依頼し、防災に関しての知識向上にとどまらず、園内、園周辺の安全再確認をし、非常ベルを用いた訓練を実施した。その後、教員間で「災害時の対応マニュアル」「不審者対応について」の確認を行った。

更にコロナ禍でのお弁当の内容について、食べやすいメニューを保護者をお願いしていることから、管理栄養士に「子どもの食生活」についての講話を依頼した。事前に教員が質問事項をまとめて提出し講話当日に繋げた。専門的な見識に基づいた講話は、幼児の食生活そのものを考える良い機会となり実際の保育に通じることも多くあり、学びを深めることが出来た。

(2) 今後の課題

教員の教育力を引き続き向上させていくために今後も力を注いでいく。

具体的に公開保育を計画し、園内研修に繋げて専門性や意識を高めていく。

共立女子大学家政学部児童学科教員との連携も図りながら、意見交換する機会を作ることを継続する。

園外研修に関しては教員に課せられている領域が増えていることから様々な分野に参加することが必要である。今後も夏期を中心に積極的に参加し、教育力向上に努める。

【添付資料 2、園内研修実施及び園外研修参加状況】

(園内研修実施状況)

日	参加者	表題	講師
9/6	全教員	防災防犯研修	共立女子学園 管財課職員
12/2	全教員	公開保育と意見交換会	共立女子大学家 政学部児童学科 教員
12/20	全教員	子どもの食生活	管理栄養士 井上ゆりか
12/21	全教員	災害時の対応・不審者対応	なし

(園外研修実施状況)

日	参加者	表題	講師
7/21	高木	「新しい時代を伸びやかに生きる」	川田学、岸井慶子
7/24	砂塚	保育者へのエールトーク	汐見稔幸 大沢力 岡田京子
	砂塚	コロナ禍を乗り切るリーダー像	友松浩
	砂塚	保育のこれまでとこれから	花輪充
7/26	伊藤	保育者が身につけたいカウンセリングマインド	荻野ゆう子
7/27	高木	明日からできる自然遊びを創ろう	高橋京子
7/29	木村	保育で活かそう季節の行事を楽しむ絵本	すとうあさえ
7/30	間宮	4, 5歳児の楽しいからだあそび	大潤弘幸
8/2	伊藤	その場でできる「簡単シアター」	大森靖枝
8/5	間宮	子どもが豊かに遊びこめる保育環境づくり	星順子
8/17	池田	保育者は子どもの遊びの中の学びをどう理解し、 援助するか	岩井京子
	池田	幼児画について	井口佳子
	池田	あそびの中で子どもは育つ	田澤里喜
8/18	池田	保育の質を高める	岡健
	池田	テクノロジーと保育	関一夫
	池田	エビデンスに基づく発達に応じた運動指導	杉原隆
8/19	砂塚	保育尾質的な向上を目指して	若月芳浩
	砂塚	子どもの思いやりを育てる具体的支援	渡辺弥生
	砂塚	保育者の子どもを見る目	渡部玲二郎
8/20	砂塚	保護者に対する保育者の関わり方、援助の仕方	山崖俊子
	砂塚	遊戯療法の理論と実践	松尾直博
8/21	砂塚	アセスメントを生かした子ども&保護者支援	中村淳子
	砂塚	保育士の為の対人理論	品川博二

2021年度 職員会議計画

学期	回	月	日	曜日	議題	備考
1 学期	1	4	1	木	1年の初めに今年度の教育の重点について	
	2	4	2	火	入園式、始業式の相談と避難訓練について	
	3	4	14	水	子どもの日の祝い、遠足について	
	4	4	28	水	健康診断、歯科検診、こばと組保育参観について	
	5	5	19	水	夏の幼稚園について①	
	6	7	7	水	夏の幼稚園について②、絵本の読み聞かせ教員担当について	
	7	7	12	月	夏の幼稚園について③	
	8	7	21	火	夏の幼稚園についての反省	
	9	7	28	水	運動会について①、お楽しみ会について①	
2 学期	10	9	1	水	今後の予定について	
	11	8	2	木	安全対策について	
	12	9	15	水	運動会について②	
	13	9	22	水	引き取り訓練、お楽しみ会について②	
	14	10	13	水	お楽しみ会について③	
	15	10	20	水	入園考査について	
	16	11	10	水	お楽しみ会の反省	
	17	12	8	水	クリスマス会について	
	18	12	17	金	2学期の反省、3学期についての検討事項	
19	12	20	月	冬休み期間について		
3 学期	20	1	7	金	ゆうぎ会について、新入園児保護者会について	
	21	1	26	水	ひなまつり、お別れ遠足、お別れ会について	
	22	2	10	水	ゆうぎ会の反省	
	23	3	2	水	卒園式について	
	24	3	9	水	お別れ会、卒園式、来年度の行事予定について	
	25	3	17	火	3学期の反省、一年の反省	
	30	3	18	金	今後の予定について	

⑥預かり保育

(1) 分析

〔視点〕園の受け入れ状況

(状況) 通常の預かり保育は、週4日(月・火・木・金)(行事などがある時は実施せず)、保育終了後2時間を園舎1階の保育室で実施している。長期休暇には実施していない。

2019年10月から幼児教育無償化が実施され、預かり保育について一定の条件を満たせば利用補助が認められ適用されるようになった。本園では、月極利用を受けておらず必要に応じて、その都度申し込みを受けている。このことから利用理由については、保護者の就労や体調不良、きょうだいの保護者会等の用事の他、友達と安全に遊べる場として利用するなど様々である。

費用は2時間利用の事前予約600円、当日予約800円(何れも簡単なおやつ代を含む)である。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底するために、定員を15名から12名に減らして実施した。また、飲食の機会を減らすために、おやつ時間を設けずにお菓子は持ち帰っている。

令和元年度まで100日ほどの実施で利用者は約1100人、一日平均10人～11人であった。

令和2年度の年間実施日数は、82日、利用者は406人であった。一日平均約5人。

令和3年度の年間実施日数は、117日、利用者は802人であった。一日平均約7人。

通常の保育終了後の時間であることから、ゆったりと過ごせるように努めており課題活動は取り入れていない。今年度も遊びが密にならないような環境設定を工夫し、その日の利用人数に合わせて遊びを設定してきた。

園児が預かり保育に不安を感じている時、預かりの専任教員が体調を崩した時、保護者からの突然の時間延長利用時には、園長をはじめ専任教員が補助している。

(2) 今後の課題

人数制限を設け感染防止対策を徹底して予定通りに実施することができた。今後も感染防止対策を継続していく。

園内研修で半日の教育時間に短縮した場合にも教育時間終了後に2時間の預かり保育を実施するなど、取りやめることがないように努力してきた。この結果、様々な保護者のニーズに合わせ運用を続けることができた。今後も社会状況や園の実情に合わせた対応を検討していく。

各保護者の預かり保育補助金交付申請に伴う幼稚園事務が増大していることから、今後の動向に合わせて事務作業の対応について検討を続けていく。

⑦学校評価

(1) 分析

〔視点〕自己評価の実施状況

(状況) 自己評価を毎年行い、その中で保護者アンケートを実施している。自由記述欄で記された事項については、保護者用にアンケート結果と共に紙面で報告して改善に努めている。

今年度は2月に実施し、回答率は89%であった。(回答率は例年85%を超える。)

回答については、(ア) そう思う、(イ) どちらかといえばそう思う、(ウ) どちらかといえばそう思わない、(エ) そう思わないで示されたものを園で集計し%表示した。

園で行う教育全般について満足度を尋ねた項目では、「おおむね満足している」以上は、99%であり、今年度も高い支持を得ることができた。

(2) 今後の課題

今後も保護者アンケートを含めた自己評価を教員全員で進め、検討し改善を図る。

自由記述箇所には様々な意見が出された。アンケートの結果と共に添付資料に載せる。

【添付資料2、保護者アンケート、自由記述箇所】

保護者アンケート

		評 価 内 容	ア	イ	ウ	エ	備考
			そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	未回答
保育実践 について	1	共立大日坂幼稚園は、教育方針や目標がしっかりしている	90	9	1		
	2	教育方針や目標にそって保育実践がなされている	89	9	1		1
	3	園は、子どもの自主性や意欲を大事にしている	91	8	1		
	4	園は、生活習慣や社会のルールを時を捉えて理解させ、身に付けるように指導している	92	7			1
	5	園は、友達との関わりや異年齢、他学年との交わりを大切に育てている	89	10	1		
	6	教師は、遊びを大切にし、発展させ、豊かな学びを促している	90	9	1		
	7	教師は、一人ひとりを理解し必要に応じた援助をしている	85	14	1		
	8	担任だけでなく教職員全員で一人ひとりを育てようと協力している	92	8			
保護者の方との 連携 について	9	園は、家庭との連携を大切にし、保護者と協力して教育を進めようとしている	78	20	1		1
	10	個人面談など、園児について相談できる場が提供されている	84	16			
	11	保育参観など、園生活の様子が分かる場が提供されている	53	43	3	1	
	12	保護者は、園や教師に子どものことを相談しやすい	70	29	1		
	13	様々な手段を用いて園児の姿が伝えられている	64	28	7	1	
	14	園は、預かり保育など子育て支援に努力している	72	25	3		
	15	園は、地域や未就園児などに活動の場を提供している	60	34	5		1
今年度の 安心安全 について	16	園は、清掃や消毒が行き届き衛生的な環境づくりがなされている	97	3			
	17	園は、防犯対策や防災対策に努め、安全確保に努力している	91	8	1		
	18	園では、感染症予防のための教育や生活がなされている	94	5		1	
総合的 にみて	19	自分の子どもは、幼稚園に喜んで通っている	93	7			
	20	共立大日坂幼稚園の生活に満足している	93	6	1		

自由記述欄より抜粋

【良い点として】

- ・全てに満足している。
- ・理想的な教育に満足しており、初めての教育機関が共立大日坂幼稚園で良かった。
- ・全ての先生が子どもの個性を尊重してくださり安心して過ごせた。
- ・教職員皆様が園児一人ひとりに丁寧できめ細かい保育をし、対応して下さったことに感謝している。
- ・子どもの心の根っここの部分を育てて頂いたことに感謝している。
- ・コロナ禍でできる行事や活動をして下さったことに感謝している。
- ・コロナ禍でも安心して過ごせるように感染防止対策をしっかりと下さったことに感謝している。
- ・コロナ禍で保育時間等を柔軟に工夫され、個別に対応して下さったことを有難く思う。
- ・コロナ禍で幼稚園という遊べる場所、安心して過ごせる場所を作って頂き感謝している。

【改善点として】

- ・コロナの状況が改善したら参観や行事、活動を以前の内容に近づけて実施して欲しい。
 - ・スマホアプリを導入して(出欠席管理、預かり申請、体温入力、行事カレンダー、お知らせ配布等)、保護者や先生方の事務作業の軽減に繋げて欲しい。
- 他に、預かり保育時間の延長、工作遊びの質向上、連絡システムの内容検討、登降園時の警備員配置について意見があった。